

【褥瘡について】

いわゆる「床ずれ」は、医学的には「褥瘡」と呼ばれます。骨によって圧が加わり、挟まれた組織が壊れた状態です。体の一部に集中して体の重みがかかると、褥瘡ができてやすくなります。健康な人では、一晩寝ている間に、20〜30回も寝返りを打ち、無意識のうちに同じ体位による血流の悪化を防ぎ、褥瘡を予防していることになりました。

褥瘡ができてやすい人は痛みを感じることができない人、寝たきりや1日のほとんどを車いすで過ごし、自分で姿勢を変えられない人、栄養不良の人、関節拘縮がみられる人、むくみがある人、尿や汗で常に体が湿っている人、年を取り皮膚が薄くなっていたり、乾燥して皮膚が脆くなっている人です。寝衣・シーツのしわやオムツカバーなどで皮膚と触れているところに摩擦やズレができると褥瘡ができてやすくなります。

褥瘡は予防が大切なので、圧迫、ズレを起こらないように工夫をしたり、スキンケア、栄養状態改善、体位の工夫（ポジショニング）やリハビリテーションなどが行われます。

褥瘡の治療は主治医を含め看護師、介護士、セラピストのチームで行います。また病院には褥瘡対策委員会もあり、褥瘡改善について回診を月2回行い、多職種で褥瘡の予防や治療について検討しています。最近では皮膚観察チェック表や除圧チェック表を見直して、褥瘡の新規発生の予防や褥瘡の経過観察に用い、褥瘡ゼロを目指して活動しています。



褥瘡回診の風景

褥瘡委員会 小橋川由美子

【当院での医療事故防止対策】

医療安全委員会では、「安全で良質な医療」を提供するため、組織横断的に院内の安全管理を担っています。医療は人間が行うものであるため、絶対にミスをおかさないという保証はありません。そのため、医療事故は起こるものという認識を前提に、医療事故防止対策を立て、一つでも事故を減らし、安心した医療の提供が出来るよう、職員への研修を行っています。

また、医療安全の取り組みには、患者さん、ご家族のご協力が必要不可欠で、医療安全は患者さんと職員が共に実践することが重要だと考えております。

当院では患者間違いを防ぐために、患者さんにフルネームを言っていたら確認します。



職員研修の風景

患者さんをお願いしたいこと

患者さんの治療には、医師、看護師、薬剤師、検査技師など多くの医療者が関わります。患者さんの確認をより確実にするため、リストバンド（識別バンド）の装着をお願いしております。点滴検査等を行う際には、リストバンドに書かれてある氏名、性別、誕生日で確認をします。

ネームバンド装着時には、患者さんも氏名や生年月日が間違っていないか確認してください。何度もお名前をきかれたり、ネームバンドを見せて頂いたりする事があると思いますがご協力ください。

医療安全対策委員 金城ユリ子



食事など多様な場面で確認！



平成28年度 第2回 家族情報交換・勉強会のお知らせ

当院では、患者様やご家族の方同士での意見交換を行い、有意義な時間を過ごしていただく事を目的に家族情報交換・勉強会を行っております。さて、今回下記の日程で開催することとなりましたので、お知らせ致します。

日時…平成28年10月22日（土）

14時〜15時

場所…ちゅうざん病院

5階ホール

内容…食事バランス

誤嚥性肺炎予防について

参加費…無料

申込期間…10月18日（火）まで

参加希望の方は職員にお声をかけを宜しくお願いいたします。担当…地域サポート委員会

与儀・金城



ちゅうざん病院ウェブサイト
[www.chuzan.or.jp]
← こちらからもアクセスできます